

## 茶畑 SR times

発行元：宮城県仙台第一高等学校科学の甲子園  
仙台一高 A チーム・B チーム

10 月 13 日に「科学の甲子園～みやぎチャレンジ 2021～」が行われました。仙台一高からは 2 年生 8 人の A チーム、1 年生 8 人の B チームが出場しました。物理、化学、生物、地学、数学、情報の 6 教科の総合得点で競う筆記競技とライトレーサーのプログラミングを行う実技競技で他校と競いました。

※実技競技：ライトレーサーをプログラミングして指定コースの走行タイムを競った。

筆記競技：6 科目の合計得点を競った。

## 結果 B チーム

石田空、高橋葉織、辻谷彩衣佳、安田侑真、阿部旺介、阿部稜、高山カリム  
安田杏祐の 1 年生 8 名は仙台一高 B チームとして科学の甲子園に出場しました。  
総合順位は 14 チーム中 **5** 位でした。

得点、結果は以下の通りです。



筆記 競技	問題	物理	化学	生物	地学	数学	情報	合計	順位
	満点	30	30	30	30	30	30	180	
	平均点	16.1	19.6	9.8	15.1	15.6	10.9	87.1	
	得点	16	22	8	14	16	16	92	

  

実技 競技	項目	得点	合計	順位
	満点	120	120	
	平均点	60.9	60.9	
	得点	66	66	

  

総合得点		順位
満点	300	
平均点	148	
得点	158	

## 大会を通して

今回の科学の甲子園を通して、自分の考えを他人に伝えることの難しさを学ぶことができました。実技競技では、指示が滞ったり、指示どおりに動くことが出来ないなどといったことが起きた。自分の考えを他人に伝える能力は社会生活において重要である。今回の経験をこれからの人生に活かしていきたいと思う。

## 感想

科学の甲子園は三年間のカリキュラムをすべて網羅する必要があり、一年生の我々には大変なことが多かった。だが、終わった今、自分は科学の甲子園に参加して良かったと思う。今回は入賞することはできなかったが、日々の学校生活では手に入れることのできないものを手に入れることが出来た。私たちには来年がある。来年こそは今年の雪辱を果たすため、茨城への切符をなんとでもつかみ、茨城の空の下でみんなと最高の思い出を作りたい。



# 祝！筆記2位！

私たち2年生8名は仙台一高Aチームとして出場した。1位は逃してしまったが、実りある経験となった。

## 筆記競技

筆記テストでは、定期テストのような問題とは異なり、深い思考力が要求されるような問題が多かった。また、電卓の使用やチーム内でのそうだんがみとめられているなど、試験の仕組みも特徴的であった。それぞれの持ち力を最大限発揮して、筆記競技で2位をとることができた。



## 実技競技

実技競技は、「ロボットで大運動会」というテーマで行われ、私たちは制限時間以内にロボットとそのプログラムを作成し、既定のコースを走らせてそのタイムを競った。コースには、自転車のベルトの形をしたオーバルコースと、楕円の一部が凹んだコンケーブコースの2種類があった。

製作では、コース作成に時間がかかってしまったり、配線ミスでロボットが適切に動かなかったりして、制限時間を大幅にロスしてしまった。オーバルコースは、他チームと比べ、かなり速いタイムでゴールすることができたが、コンケーブコースでは、脱線をしてしまい、完走することができなかった。



## 感想



- 筆記競技では、普段考えてこなかった着眼点の問題が多くあり、平日頃学ぶことの包含範囲の広さを知れた。
- 実技競技では、チームプレイにおける謙虚さの大切さを学べた。
- 科学を志す人の多さを改めて認識し、負けじと頑張ろうという気概を得た。
- 後輩たちには、積極的に参加してほしい。